

【学力向上フロンティアスクール中間報告書】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	高松市立木太小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	2	3	3	2	19	27
児童数	98	94	99	76	83	86	5	541	

研究の概要

1. 研究主題

学ぶ喜びと楽しさを感じ、確かな学力を身につけるために
～基礎・基本の定着を図り、課題解決力を培う指導の工夫～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年 算数： 子どもの理解度や定着度に差が出やすい教科であることから、基礎学力の向上を図るため。

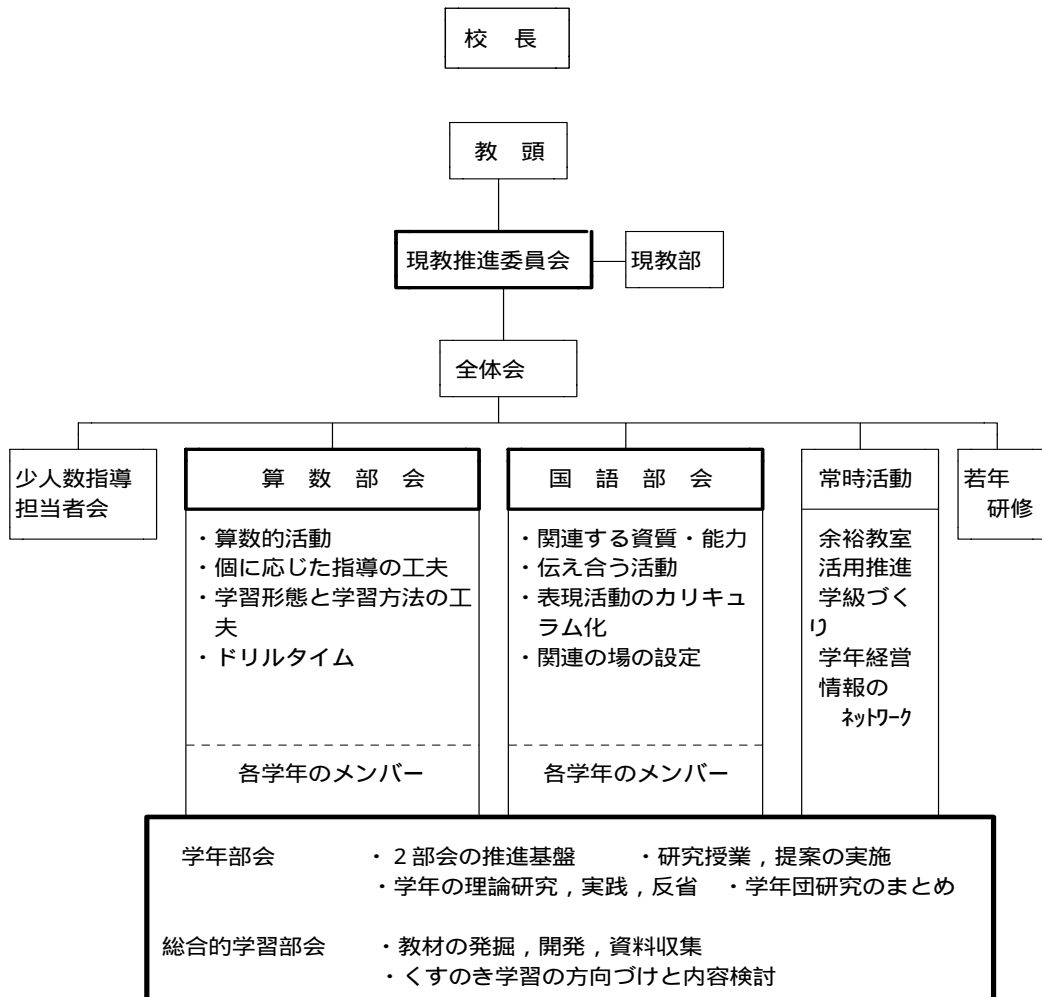
全学年 国語： 学習全般及び生活の基礎・基本となる教科と考え、「話す」「聞く」「読む」「書く」などの学習活動から言語感覚を養い、伝え合う力を高めるため。

(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p>学ぶ喜びと楽しさを感じ、確かな学力を身につけるために ～基礎・基本の定着を図り、課題解決力を培う指導の工夫～</p> <p>研究の見通し</p> <p>仮設1 児童の実態をふまえて、個に応じた指導法の工夫による授業改善を図ることで、確かな学力が身につくだろう。</p> <p>仮設2 操作活動を取り入れることで、学ぶ喜びを味わい、学習の基礎・基本となる力の育成につながるだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>教科学習の充実を図る学習指導の改善（国語・算数）</p> <p>基礎・基本を身につけるための指導内容の工夫</p> <p>国語力を培うために</p> <ul style="list-style-type: none"> 重点指導単元の設定（読みと表現を関連づける単元を各学期に1単元ずつ） 「読む」力を高める読書指導の在り方 <p>数学的な考え方を育てるために</p> <ul style="list-style-type: none"> 個に応じた指導形態の工夫（少人数指導・TT指導） 算数的活動の在り方と実践 <p>学ぶ喜びを味わいながら定着度を高める指導法</p> <p>学習効果を高める教材教具の工夫</p> <p>定着度を高めるための繰り返し学習の充実</p> <p>漢字や語彙・語句を中心にしたもの及び数と計算領域におけるドリルによる学習</p> <p>「ことばの力」・「計算の力」の検定方式による自作テストの実施</p> <p>家庭学習の充実</p> <p>各学年の重点をふまえて全校的な系統を考えた内容を検討し、保護者と協力しながら基礎学力の向上を目指す。</p>
--------------------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ</p> <p>学ぶ喜びと楽しさを感じ、確かな学力を見につけるために ～基礎・基本の定着を図り、個が生きる学習指導法の工夫～</p> <p>研究の見通し</p> <p>仮設1 児童の実態をふまえて、個に応じた指導法の工夫の授業改善を図ることで、確かな学力が身につくだろう。</p> <p>仮設2 単元を見通した綿密な指導計画と指導過程の工夫とともに、指導に生かせる個に応じた評価のあり方を工夫することで、より確かな基礎学力の定着を図ることができるだろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 指導内容や発達段階に応じた少人数指導の形態及び在り方（課題別・習熟度別・TT） ・ 学び合いを重視し、個を高める交流学习の工夫（ペア学習・小グループ学習・中グループ） ・ 単位時間や単元内における児童及び教師の評価の在り方の工夫 ・ 伝える力を培う「読み」につながる「話す」「書く」の指導の工夫
--------------------	--

(3) 研究推進体制



1. 研究の成果

(1) 基礎・基本を身につけるための指導内容の工夫

国語力を培うために

国語力を培うための授業改善

重点指導単元の設定

学期に1つ重点指導単元を設定し、授業改善に取り組み、表現活動とつないで目的に応じて読むことで、「確かに読む力」や読書活動とつないで、「豊かに読む力」、「幅広く読書をするための方法や態度」を身につけることの研究を重ねてきた。

「読む」力を高める読書指導の在り方

1・2年	事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読む。
3・4年	目的に応じて内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む。
5・6年	目的に応じ、内用や要旨を把握しながら読む。

上記の力をつけるための基礎的・基本的な力はどのようなものかを、より具体的に探り、単元でつけたい力を明確にした。

・ 基礎・基本の力をつけるための具体的な学び方

ア 目的的な読み方・ 表現活動と関連させて、図鑑や事典を作るために、基本文型や文章構成、表現の工夫を読むなど、読みの目的を持つことで、読み取る事柄を明確にし、主体的に読むようにした。

イ 読書活動の重視・ 教材文の読み取りで終わらず、同じ作者や同じ主題の他の作品を読んだり、自分の課題を調べるために読書したりすることで、読書に親しむ態度を育てる。

ウ 操作活動の重視・ 書き込み、書き抜き、線を引く、カードに書く、ワークシートにまとめる、シールを貼る、付箋紙をつけるなど、読取っていくための効果的な操作活動を工夫した。

・ 子どもたちの学びと評価

評価規準を作成し、評価内用や評価方法を工夫する。「ふりかえりカード」で自己評価したり、交流後に再度、自己評価や相互評価をして個の伸びをとらえた。

数学的な考え方を育てるために

「数学的な考え方」を育てる授業改善

重点指導単元の設定

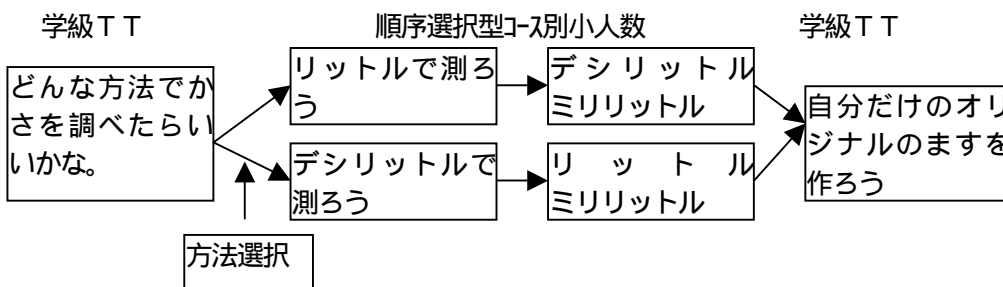
各学年で、学期に1つ重点単元を設定し、授業改善に取り組んだ。特に算数的活動を重視し、児童の多様なものの見方・考え方を育てると共に、それを表現したり、学びあったりする機会をとるよう心がけた。

個に応じた指導形態の工夫（少人数指導・TT指導など学力を身につけさせ、きめ細かな指導をするために少人数指導を行う。グループの人数を少なくすることで、一人一人の考え方やつまずきに対応し、苦手意識を持たせず、意欲を持って学習に取り組めるように支援した。少人数の学習形態を年間計画に入れ、計画的に実践した。

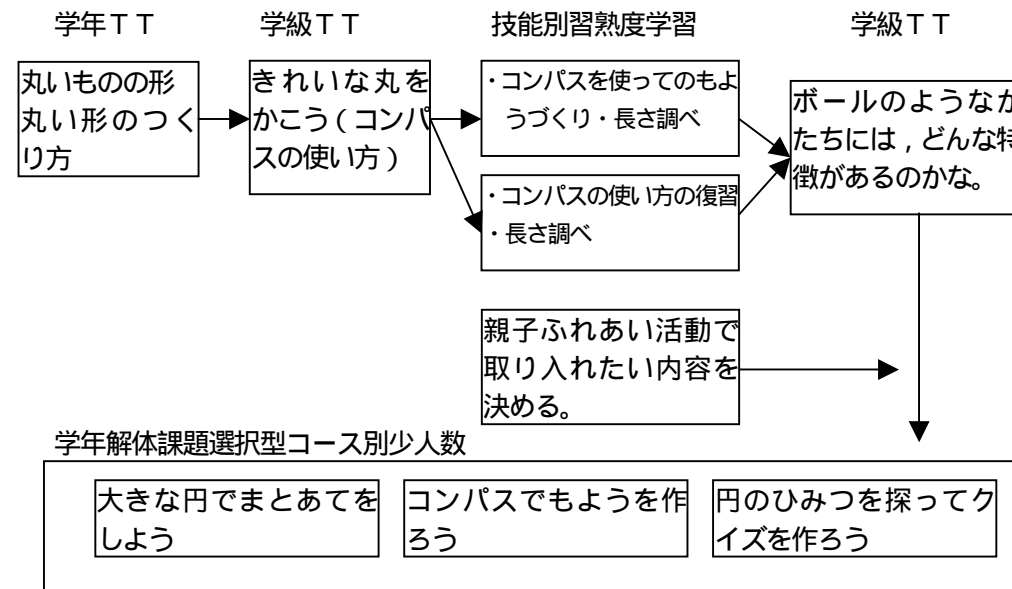
・ 少人数指導の形態

単元の中で児童の実態によって学習形態を変える工夫（例）

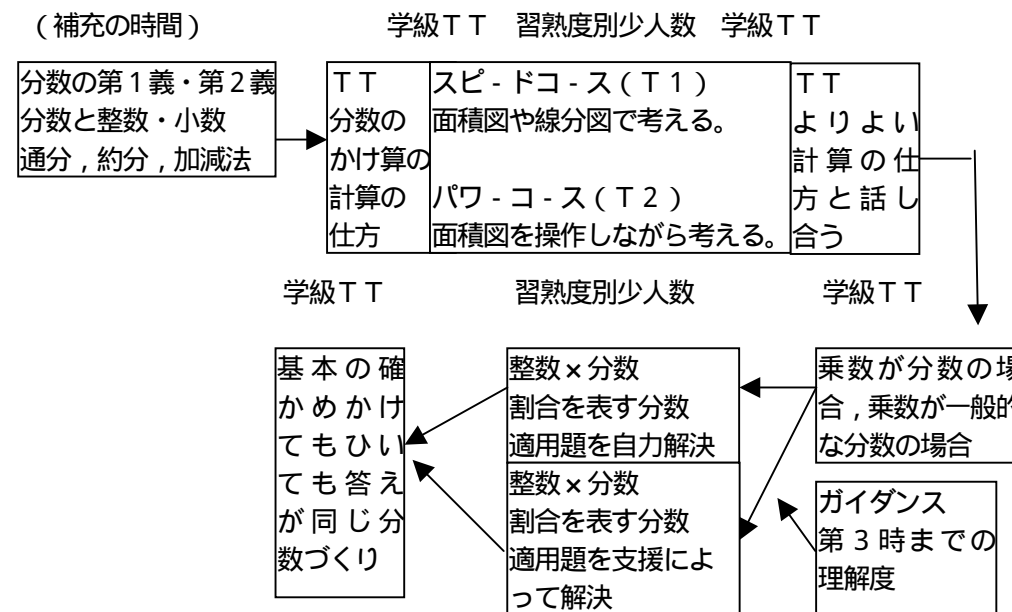
<3年「かさしらべ」 全5時間>



<4年「円と球」 全9時間>



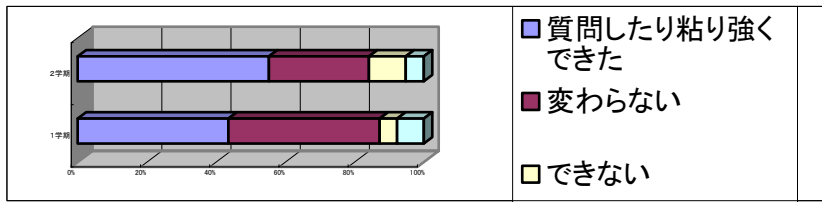
<6年「分数のかけ算」全9時間+補充の時間>



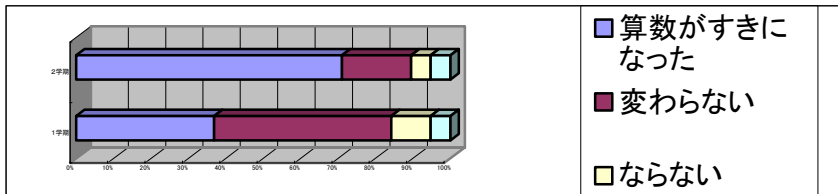
- ア 習熟度別学習・・・ 習熟度に大きな開きが出やすい単元ではあらかじめプレテストを行い、児童自身が自分に合ったグループを選択して行う。特に遅れて進む児童に対しては個別に指導がしやすく、つまずきも見つけやすいというよさがあるが、児童には劣等感を持たせないように、配慮が必要である。
- イ 課題別学習・・・ 発展的な課題や調べ学習の方法が異なる場合に行う。児童の興味や関心に細かく対応でき、学習に主体的・意欲的に取り組みやすい。
- ウ 等質グループ学習・・・ 集団を習熟度や表現力・積極性などを考慮して分けておき、担当する教師がローテーションして授業を行う。授業の導入段階で児童の興味や関心をつかみやすく、後の習熟度や課題別の学習につながるように行う。
- エ T.T・・・・・・ 授業を共にしながら、評価基準をもとに授業中に評価を重点的に行いたい場合に行い、後の少人数指導のグループ分けに活用する。

少人数指導についてのアンケート（児童用）

分からないところを質問したり、自分になっとくするまでねばり強く取り組んだりできるようになりましたか。



算数に対する気持ちはどうになりましたか。



「算数的活動」のあり方と実践

本校では、算数的活動を児童が主体的に取り組み、目的意識のはっきりした必要感のある活動でなければならないと考えている。そのために学ぶべき内容を洗い出し、どのような算数的活動がよいかを担任と少人数担当で吟味した。低学年・中学年では手や身体を使った作業的・体験的な活動を中心としたものを、高学年では作業的・体験的な活動に加えて思考活動を含む内的な活動も取り入れ、学んだことが、生活場面で生かされたり、一般化したりできるように取り組んでいる。

また、算数的活動で試行錯誤し、多様な考え方を友だちや教師に受容されることによって自信が生まれ、学び合うことにより思考力も高まってきている。こういった算数的活動を充実させることで、論理的な思考力や表現力が育つだけでなく、学ぶ楽しさや分かる喜びを体感でき、算数に対する意欲の向上にもつながっている。

(2) 学ぶ喜びを味わいながら定着度を高める指導法

学習効果を高める教材教具の工夫

新しい概念を学習する単元の導入段階では、問題場面をイメージ化しやすいように視覚に訴える教材や教具を工夫した。導入段階ではより具体的にし、具体から抽象、抽象から一般化への学習の広がりや常を意識して教材・教具の工夫を行った

評価の工夫

評価基準を活用し、担任と少人数担当で事前に評価内容について、話し合う。特に単元末のテストでは評価しにくい「関心・意欲・態度」や「数学的思考方」については授業の都度評価していく。また、教師側の評価だけでなく、単元末に学習への取り組みや力になったこと等について「ふりかえりカード」書き、それを次の指導に活用する。

2. 今後の課題

少人数・TTなど、単元の内容や個の実態に応じた指導形態の工夫。

教材の内容が分かり、学ぶ楽しさを知る本質に迫った教材開発。

子どもの言語活動に目を向け、低・中・高と発達段階に応じた能力表や系統表を作成。

「読む」力に付随する「書く」力・「話す」力を表現活動に取り入れながら、国語力の向上。

学力等把握のための学校としての取組

香川県教育委員会による学習状況調査の分析と有効活用

国・算・理において、学習状況調査の結果を分析し、学級及び個人の学力状況と変容を把握する。それをもとに、指導の重点や個別指導を行う。

単元別たしかめテスト（自作テスト）・県版テスト

単元終了後に実施することで、子どもの定着度を図る。

「ことばの力」「計算の力」（自作テスト）

アンケート調査（児童・保護者）

自己評価とアンケート（教師）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

年度末に研究集録を作成し、地域周辺の学校に配布する。

教科研修会において、授業研究公開し、研究討議も合わせて実施した。

学力向上フロンティアスクール地区協議会において本校の取り組みを発表した。

ホムペ上に研究の概要を掲載する。

<http://www.edu-tens.net/syoHP/kitasyouHP/index.htm>

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	1 5年度からの新規校	1 4年度からの継続校		
【学校規模】	6学級以下	7～12学級		
	13～18学級	19～24学級		
	25学級以上			
【指導体制】	少人数指導	T・Tによる指導		
	一部教科担任制	その他		
【研究教科】	国語	社会	算数	理科
	生活	音楽	図画工作	家庭
	体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	